

平成30年度 北毛地区小児救急医療対策協議会 次第

日 時：平成30年12月19日（水）14：30～
場 所：渋川保健福祉事務所 会議棟2階会議室

1 開 会

2 挨 拶

3 会長の選出

4 議 題

- (1) 北毛地区小児救急医療支援事業（休日・夜間輪番）実績
- (2) 小児救急電話相談実績等
- (3) 小児救急医療に係る課題等について
- (4) その他

4 閉 会

【配付資料】

- 平成30年度 北毛地区小児救急医療対策協議会次第
- 平成30年度 北毛地区小児救急医療対策協議会出席者名簿
- 北毛地区小児救急医療対策協議会の設置及び運営に関する要領
- 資料1（北毛地区小児救急医療支援事業（休日・夜間輪番）実績）
- 資料2-1（小児救急電話相談（#8000）実績（平成30年3月末日現在））
- 資料2-2（小児救急電話相談（#8000）実績～市町村別・15歳未満人口千対～）
- 資料3-1（平成31年度における北毛地区の小児科医師の体制（見込））
- 資料3-2（小児救急医療に係る主な取組、課題・問題点等について）

平成30年度 北毛地区小児救急医療対策協議会 出席者名簿

1 委員

No	所属機関	役職	氏名	備考
1	群馬県立小児医療センター	院長	外松 学	
2	渋川地区医師会	理事	関 裕介	
3	吾妻郡医師会	理事	嶋田 治	欠席
4	沼田利根医師会	副会長	角田 守	
5	群馬県立小児医療センター	地域医療連携室長	山田 佳之	
6	利根中央病院	院長	大塚 隆幸	
7		小児科部長	西村 秀子	欠席
8	原町赤十字病院	院長	竹澤 二郎	奥木事務部長 代理出席
9		小児科部長	坂爪 悟	
10	渋川広域消防本部	係長	小林 靖典	
11	吾妻広域消防本部	主任	樹下 陽示	
12	利根沼田広域消防本部	係長	眞庭 高幸	

2 事務局等

No	所属機関	役職	氏名	備考
1	渋川保健福祉事務所	所長	見城 秀樹	
2		医監	服部 知己	※利根沼田保福と兼務
3	〃 総務福祉係	次長(総務福祉係長)	石田 隆則	
4	〃 総務福祉係	主任	星野 恵美	
5	吾妻保健福祉事務所	所長	伊藤 錠司	
6	〃	医監	後藤 裕一郎	
7	〃 総務福祉係	主幹	飯塚 昌志	
8	利根沼田保健福祉事務所	所長	荒木 重利	
9	〃 地域支援係	補佐(係長)	室橋 秀人	
10	県庁医務課 救急災害医療係	主幹	林 利幸	

平成30年度 北毛地区小児救急医療対策協議会 開催概要

- 1 開催日時
平成30年12月19日(水) 14:30～15:40
- 2 場 所
渋川保健福祉事務所 会議棟2階会議室
- 3 出席者
別添出席者名簿参照
- 4 会長の選出
推薦により、各委員から了承を得、外松委員を会長に選出
- 5 議 事
(1) 北毛地区小児救急医療支援事業(休日・夜間輪番)実績
 - ア 説 明
資料1により、事務局から説明
 - イ 意見等

【委員】
資料中の「年次推移【総数】」は、2次輪番病院を受診した数ということでしょうか。

【医務課】
2次輪番の当番日の受診者である。ただし、小児医療センターについては、2次病院からの転院等による3次救急の患者も含まれる。

【委員】
「年次推移【救急搬送】」については、救急車で搬送された数という理解でしょうか。

【医務課】
そのとおり。

(2) 小児救急電話相談(#8000)実績等

- ア 説 明
資料2-1、2-2により、医務課から説明
- イ 意見等

【委員】
回答の内容で「翌日の受診をすすめた」というのが約10%あるが、翌日受診した際、「前日に受診するべきであった」と言われた事例はあるか。

【医務課】
個別に医療機関等から、そのような事例があつて困つたという話は伺っていないが、報告があれば事例として検討・対応等したい。
なお、#8000は電話相談であり、確定的な診断ができるものではない。相談員による重症度の判断は、厚生労働省の相談マニュアルにより判定しているため、全国的にある程度統一できているものと考えている。

(3) 小児救急医療に係る課題等について

ア 説明

山田委員（小児医療センター）から、課題や問題点等を説明

【山田委員（小児医療センター）】

1次救急、2次救急及び3次救急の棲み分けが出来ていないと感じている。

小児医療センターでは、基本的には2次救急を扱い、1次救急については、一般診療所及び夜間診療所を受診してもらうことになっている。夜間診療所が閉所する23時以降は、1次救急及び2次救急の対応としており、夜間診療所で対応出来ない案件については、小児医療センターで受け入れている。

特に1次救急について、患者が小児医療センターでの受診を希望していることや、自宅から近い等の理由で、本来は1次救急を受診されるべき方から、1次救急よりも先に小児医療センターへ問合せされるケースが多々あった。2次救急でないと判断した場合、小児医療センターでは受診を一律お断りしているが、消防の電話相談で小児医療センターを紹介された場合、クレームになってしまうことがある。

また、実際にあった事例で、お住まいの地域によって沼田の診療所と渋川の診療所が選択肢としてあった場合、沼田の1次救急が利用できない時間に小児医療センターを受診したいということがあったが、このようなケースについても、渋川の夜間診療所等で対応できる場合は、そちらを先に受診していただくものと認識している。

消防で電話相談を受けた際、患者が小児医療センターでの受診を希望していること等の理由で小児医療センターを紹介いただくことは避けていただきたい。

それから、小児医療センターは総合病院と併設していないため、外傷の患者を引き受けられないケースが多々ある。電話のみで軽微だと判断できない場合についてもお断りすることになるので、徹底してもらいたい。

また、5分前コールが1分前等になってしまうケースがあるということなので、そちらも徹底してもらいたい。

イ 意見等

【委員】

消防で行っている電話相談は、誰が受けているか。

【委員】

渋川消防では、本署は情報管理員、分署は通信員が持ち回りで担当している。コンピューター検索により、近隣の複数の医療機関をお伝えする場合もあるので、患者が小児医療センターを希望して問合せるケースが想定される。

渋川からの救急搬送の5分前コールは難しいこともある。

【委員】

吾妻消防では、東部消防署の職員が持ち回りで担当している。担当者は県の消防学校の救急課程修了者ではあるが、救命士が必ず担当するような体制ではない。

5分前コールについては、管内で該当するケースがあると思うので、再度職員へ周知・徹底したい。

【委員】

利根沼田消防では、中央消防署救急係の救急隊員が担当している。出勤などにより不在の場合は、他の職員が担当する。利根沼田地区では、病院に受診が可能かどうかの連絡を消防が行っている。そのため、電話相談1件にかかる時間が非常に長く、1件につき30分以上費やしてしまうこともある。

また、管内は観光地域が多いため、観光地域の繁忙期などは夜通し電話対応をしていることもある。さらに、小児科医による診察を希望するご家族と医療機関の間に挟まれて、苦しい思いをすることが多々ある。

5分前コールについては、再度職員へ周知・徹底したい。

【委員】

1次救急、2次救急及び3次救急の棲み分けについては、数年に一度、問題として話題に上がる。一般診療所が閉院した後については、患者は原則として輪番病院や夜間診療所を受診するシステムになっている。この部分が上手く徹底されていないことにより、定期的に問題となっている。

そのため、電話相談を行う職員へ、小児の相談があった際、2次救急が不要と判断された場合は、1次救急の受診以外に選択肢はないというのがこの地区のシステムであるということ、再度周知・徹底してもらいたい。

なお、残念ながら外傷系はこのシステムに該当しないので、外傷系の患者については、外傷系の救急を紹介してもらうことになる。

【委員】

消防でも電話相談等についてご苦労されていることは想像できるが、小児医療センターも同じである。小児医療センターでは、医師が対応することもあるが、基本的には師長が1名で機材や薬剤の準備、相談や苦情の対応を行っている。受診をお断りするのは非常に心苦しい部分もあり、また、ご家族が小児科医による診察を希望されるお気持ちもわかるので、ご家族の気持ちを汲みたいとも思うが、システムを徹底することが、一見優しくないように見えて最終的にみんなに優しいことになると考えている。一枚岩となって結束してやっていきたい。

ウ 説明

大塚委員（利根中央病院）から、課題や問題点等を説明

【大塚委員（利根中央病院）】

輪番に関しては、概ね良好に運営出来ている。当番日でない日にしばしば問い合わせがある。当番日と祝日の午前は、1次救急も行っている。

また、（当番日でない日における）オンコールの小児科医について、これまで病院近くの宿舎に待機させていたが、平成30年12月から、自宅での待機を可とした。

エ 意見等

特になし

オ 説明

資料3-2により、事務局から説明

カ 意見等

【委員】

群馬県の小児救急地域医師研修事業として、「小児救急医療研修会」を11月12日に開催し、吾妻郡医師会、近隣の医療関係者、原町赤十字病院の医師等が参加した。前橋赤十字病院の溝口医師に「子どもの救急ってどんなとき？」というタイトルで講話をお願いし、参加者からは大変好評であった。

また、小児の体制について、医師の不足により、30年度上半期で受け入れをお断りした件数は79件であり、例年80件前後で推移している。（0歳～3歳が54%、4歳～6歳が19%、7歳～11歳22%）

【委員】

子どもが夜間に体調不良となり、家族が小児医療センターへ連絡したところ、紹介状がないため受け入れを断られ、翌日診療所を受診したところ、利根中央病院へ入院となったケースがあった。稀なケースだが、医師に話が伝わっていれば、違う対応となったかもしれない。

【委員】

症状を伺って、明らかに2次救急の対応が必要であると判断すれば、小児医療センターで診療する。ただし、対応する師長や副師長によって、統一出来ていない部分があるかもしれない。持ち帰って師長と相談したい。

(4) その他

特になし